

辻 康裕

【内野手・管理本部所属】

■インタビューー
片山直樹(球明会事務局)

このコーナーはシティライト岡山の選手・スタッフ取材し皆様にご紹介するコーナーです。

選手・スタッフの熱い思いをお届けできればと思っています。

第1回は2010年入社した辻康裕選手です。

辻選手、今シーズン本当にお疲れ様でした。

それではまず、社会人1年目を終えての感想を聞かせてください。――

辻：社会人1年目を終えて、野球に対する考えや、やり方は今までとあまり変わらなかったですが、学生生活の中では通用していたことが社会人では通用しない事もあり、1つ1つ気づいたりすることで野球のプレーに対する細かさや責任の重さを身に染みて感じる事ができました。
この1年で学んだ事を2年目以降も忘れることなく、仕事と野球に取り組んでいきたいと思います。

――今年は主に1番・遊撃手として活躍されました。

学生時代と何か違う点はありましたか?――

辻：大学でも主に1番・遊撃手として試合に出させてもらっていましたが、学生時代は試合に勝ちたいという想いとは別に、自分自身の成績を優先させていた所がありました。社会人になってから試合を重ねる度に、自分の成績よりもとにかく勝ちたいと思うようになりました。
学生と社会人で野球はあまり変わらないですが、気持ちの部分で大きく変化がありました。

――ご自身のプレースタイル、またはどんなことを心がけて日々プレーされていますか?――

辻：自分の持ち味は守備と走塁です。この2つに関しては誰にも負けたくないと思っています。都市対抗では全く発揮することが出来ませんでした。日本選手権では自分でもよく出来た方だと思います。日々プレーする中で心掛けていることは、技術も大切ですが、気持ちの充実を心掛けています。どんな状況でも常に平常心、楽しむことを忘れずにしたいと思っています。日本選手権では気持ちのコントロールが上手く出来たので自身の成績にも繋がったと思います。

――話は変わりますが、野球を始めたきっかけ

また憧れた選手はいましたか?――

辻：憧れていた選手はいないです。野球を始めたきっかけは、父がソフトボールをしていたのでその影響が一番大きいです。
あとは、高校野球を甲子園で直に観戦し、幼いながら自分も甲子園で野球がしたいと思ったこともきっかけの1つです。

――現在、辻選手が目指している選手像を教えてください。

具体的目標としている選手や人物はいらっしゃいますか?――

辻：目指している選手像は特にないです。
自分自身のプレースタイルを貫きたいと思っています。
遊撃手は自分にとって特別なポジションです。
相手チームにショートに飛んだらアウトだって思われたいです。
攻撃では1番を打たせてもらっているの、追い込まれても粘れる打者、塁に出て走るというイメージを持たれたいです。
走・攻・守 3拍子揃った相手に嫌がられる選手になりたいです。

――来季は主将に任命されたとお聞きしましたが、目標、抱負、何でも構いませんので意気込みを聞かせてください。――

辻：大学でも主将をさせてもらいましたが、社会人は年上の選手もいらっしゃる中でやっていかなければならないので不安もありますが、遠慮することなくやっていきたいと思っています。
また、先輩からのアドバイスや後輩からの声を聞き、メリハリのある明るく、元気なチームにしていきたいと思っています。
来季はチーム発足4年目で、2年連続決勝トーナメントで負けているので、来季はその反省を生かし、勝ちにこだわってドームへの切符を手にとりたいと思います。

――最後にファンの皆様一言お願いします。――

辻：今季は3年目の節目にドームに出場することができませんでした。
来季は必ずドームに出場できるようスタッフ、選手一丸となって頑張っていきたいと思いますので、来季も皆様の熱い、熱い、熱いご声援をよろしくお願い致します。

――辻選手ありがとうございました。来季も期待しています。――



Profile

つじ・やすひろ●1986年(昭和61年)10月26日生、広島県広島市出身。172cm・70kg、右投・右打。広陵高時代は2年春・夏・3年春の計3度の甲子園出場。2年春には西村(現・巨人)、白濱(現・広島)らを中心に上本(現・阪神)との二遊間コンビで全国制覇に貢献。同志社大では主将を務めベストナインも受賞した。2010年にシティライトに入社し、一年目から遊撃手としてレギュラーを獲得。二年連続中国地区予選進出の原動力としてチームに大きく貢献した。
来季は第2代野球部主将に任命された。
背番号7。24歳。独身。

